

大和工業株式会社

2022年3月期第2四半期 決算説明会

主な質疑応答（要旨）

Q01. 米国マーケットの環境について。薄板ではピークアウト感が見受けられ、熱延コイルの価格もUSD2,000からUSD1,800へと下がってきている。来年の見込みについても、輸入増・サプライヤー増といった話などから薄板については悪化の見通しであると聞かすが、形鋼についてはどうか？輸入・国内サプライヤー増加等リスクの側面からお聞きしたい。

A01. 薄板については弱含みとの見方が出てきておりますが、形鋼につきましては引き続き強い状況が続くのではと見ております。薄板と違い、形鋼は米国国内での供給能力も限られており新規投資の話も無く、現状の供給体制がしばらくは続くものと思われまます。需要面につきましては、NYS 役員会の場で Nucor 社から説明があった内容となりますが、需要も強く流通在庫も少ない状態が足元で継続しており、大幅な悪化は想定されない状況でございます。輸入品につきましては、海上運賃が非常に高いことから競争力が失われており、脅威としては捉えておりません。加工品/鉄骨の流入につきましては、形鋼と違い、中国から第三国を経由して米国に輸入される迂回輸入に対しての障壁が設けられていない為、ネガティブ要因として引き続き注視してまいります。

Q02. 米国事業について、Nucor 社の開示では板・棒関連の新規工場建設投資案件が相次いで公表されているが、形鋼については特に聞こえてこない。設備投資等、形鋼事業が後回しになっているのではと感じているが、状況をお聞きしたい。

A02. NYS の設備投資につきましては、板・棒の分野に先駆けて新規投資が実施されており、その経緯からも実感として後回しにされていると感じる事はございません。実施致しました設備投資につきましては、数量を増加させることを目的としたものでは無く、品質の向上や品種の増加等を目指す内容での投資でございました。数量増加を企図した新規工場建設投資を行わないことについて“需要がこの先拡大し続けた場合、拡販が狙えないのでは？”というご指摘を頂くかもしれませんが、現在のペースで今後も需要が拡大し続ける事は想定し難いことから、数量増加を目指す投資は考えておりません。

Q03.中東事業について、改善がみられるようだが鉄鉱石安のメリットが出ているのか？また持続性は？

A03. DRI やピレットの販売価格はスクラップの価格に引っ張られる傾向が大きく、スクラップが高止まりとなる中で原料の鉄鉱石ペレットが安くなれば、恩恵は出てまいります。鉄鉱石価格は中国の動向にも左右される為、今後の変動も予想されますが、スクラップ価格につきましては環境対策の側面からも需要が強い状況が継続するものと思われ、しばらくは高値圏で推移することが予想されます。従いまして、中東事業に関しましては鉄鉱石安からの恩恵が受けられる状況は継続するのではと見ております。

Q04. 高炉メーカーでの HBI(Hot Briquetted Iron)の需要が伸びていると聞かすが、中東/SULB では HBI の外販は行わないのか？

A04. DRI から HBI を製造するための設備は現在保有しておらず、現時点では HBI として外販を行う予定はございません。HBI 製造設備の導入につきましても、投資に見合う需要が今後継続する事は想定できず、検討も行っておりません。現在も余剰分の DRI は外販を行っておりますので、今後も DRI のままで近隣需要家への販売を続けたいと考えております。

Q05. 東南アジアの事業について、鋼板類では中国材の同地域への流入が再び増加してきていると聞かすが、形鋼の状況についてお聞きしたい。

A05. 中国での輸出増値税還付撤廃の影響が大きく、同地域への中国材の輸入量は減少しております。価格面でも影響が出ており、中国材減少に伴い販売価格も上昇してきております。中国国内の内需がどう動くかにもよりますが、以前のようなボリューム感で中国材が東南アジア市場に流入してくる事は、暫く無いのではと見ております。

Q06.ベトナム/PY VINA について、合併立ち上げ以降の競争力強化の取組は？

A06. マーケットの環境が改善してきたタイミングで合併を立ち上げられた事は、事業にとってプラスでした。これまでは既存の設備を用いて製造を行う中でコスト削減等を進めてまいりました。これからは設備投資も含めて改善を進めていく計画であり、更なる競争力強化が期待できると考えております。

Q07.株主還元のお考え方について営業CFの余剰分を株主還元にと方針が示されているが、基本的なキャッシュの向け先として中心になるのは投資か？

A07. 2021年3月度期末決算説明会でお示ししました通り、キャッシュについては投資に振り向けていく事を優先として、検討してまいりたいと考えております。株主還元につきましては、業績の動向やCFの状況を踏まえ、都度検討してまいります。

Q08.株主還元について営業CFの余剰分が株主還元の原資になるとの事であったが、上期のCFでは運転資金の部分で悪化がみられ、通期で余剰が出ないのではと懸念している。本件につきお考えをお聞きしたい。

A08. 上期につきましては原料高等の影響から運転資本が増加しましたが、このまま上昇が続くとも考えられず、業績も勘案して通期では余剰分も出てくるのではと考えております。また、金額の把握等はこれからではございますが、海外合弁会社からの配当があれば、CFに貢献するものと思われまます。

Q09.新規の海外投資案件の検討状況についてお聞きしたい。

A09. 成長の源泉は海外にありという考えの下、新たな投資の機会は常に模索しております。既に新聞インタビュー等を通じご説明もしておりますが、東南アジアでの更なる拡大を目指し、既存のタイ/SYS・ベトナム/PY VINAと併せて製造キャパシティ300万t体制を構築する計画を立てております。具体的な検討状況につきましては、相手のある話でもありお伝えする事は出来かねますが、新拠点の追加に向けた検討を行っております。

以上

【注意事項】

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載されている業績見通しや将来の予測などに関する記述は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、その達成を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。
